

2017年度 国内研修 研修成果報告書

私たちは法政大学ボランティアサークルごまちゃんとして、秋田県藤里町で6日間傾聴ボランティアを中心とした活動を行った。以下では活動内容及びそれらを通して気づいたことや感じたことについて記していこうと思う。

2月19日

前日の夜に池袋から出発した夜行バスが朝7時半ごろに秋田県の二ツ井に到着。その後、藤里町の社会福祉協議会（以下社協と記す）に社協のバスで向かい、社協にて職員に挨拶及びオリエンテーションを行った。その後は昼食をはさみ、午後からはNPO法人ふじさと元気塾にて「藤里町移住定住支援事業」のお話をきいた。その中では、藤里町の話ではなく、今後の地方の在り方などにもついて考えさせられ、また、そうした中で今我々に一体何ができるのか、また、何が必要なのかということが抽象的ではあるがお話を聞く中で感じ取れた。それは、「地域内の人間関係、地域を活かした環境」を大切にしていくということであった。また、お話の中で特に印象的だったのは、「農業が今後の日本で一番大事になる」という言葉だった。会話の節々でも「安全かつ安心で新鮮で身体によい生き生きとした食材」というワードが飛び交い、今まであまり意識しなかった「食材」に対して、新たな見方がお話を聞く中で構築された。

その後は、独り暮らしのお宅訪問（独居訪問）を二人一組で行った。独居訪問では、うまくお話をできるか不安な面も多々あったが、いざ訪問させてもらおうと、どのお宅も私たちごまちゃんを心待ちにしていたようで、私の訪問したお宅であれば、まずは焼き芋やお菓子、飲み物もたくさんに買って迎えて頂き、その後は私たちの日常生活や、訪問宅の方の今までのできごと、藤里町の歴史、孫自慢等々、とにかく会話が途絶えず私たち自身も本当に楽しい時間を過ごすことができた。

2月20日

午前中は金沢地区で交流会を行った。金沢地区は毎年雪も多く雪かきも手伝っているが、今年は雪かきよりも私たちごまちゃんとして少しでも長く交流をしたいと言っていたこともあり、交流会を長時間にわたり行わせていただいた。交流会ではまず初めに、私たちが秋田に来る前にみんなで集まって必死に練習した「よっちょれ」「ドンパン節」「炭坑節」「二人は若い」を地域の方と一緒に輪になって歌い、また、踊った。地域の方も懐かしんでくれ、また、一緒にとても楽しそうに歌い、踊ってくれた。その後地域にこみっとうどんという藤里の名産品をごちそうになり、一緒に食べた。食べながらもいろいろお話を若者にしたいという高齢の方ばかりでうどんそっちのけでひたすらに会話が盛り上がった。地域の方もとても楽しそうでなによりだった。みんなで写真を何枚か取るときも地域の方から肩を組んでくれ、少しは私たちも「地域に笑顔を」という意味では貢献できたかなと実感した。帰り際も、みんな口をそろえて「もう帰っちゃうの？」「さみしいな」といっていただけ、「私たちは本当に来てよかった、地域に笑顔をもたらすことが出来た！！」とこの時も感じ

た。

そして午後は、雪中キャベツ堀体験を行った。ここではすごい深い雪をスコップで掘り、雪に埋まったうまみの凝縮されたキャベツを掘り出すというもので、最初は見たこともない量の雪にただただ興奮して楽しく雪を掘っていたが、地面までは1 m60cm くらいあり、ほんとにきつかった。しかし、そんな作業を藤里の農業を営む人は年を召そうがやっているとのことで、高齢化地区の大変さというものを、身をもって体感した。

2月21日

この日はまず午前中に「のど自慢クラブ」というものに参加した。こののど自慢クラブとは、地域の方が集まってカラオケで歌を歌うというものであった。正直、知らない曲ばかりだったが、「年を召してもこんな感じで若いころ同様毎日を楽しめたら素敵だな」という感情をいただいた。地域の方も年こそめされてるものの、ノリは私たち同様ハイテンションで、藤里社協が「生涯現役」をうたうのも納得だった。その後は昼食をはさみ、スノーシューで雪道散策をした。スノーシューは現地の方は、雪山に写真を撮りに行くときなどに使うらしく、長靴で深い雪の上を歩くのとは比べ、スノーシューをはくと大分沈む深さがましになるだけあって楽だった。これも、マニアックではあるが、雪国ならではのもので、それを体験できてよかった。その後は社協デイにてデイサービスの方々と交流会を行った。社協デイではまず、利用者の方とたくさんのお話をした。とくに、私が話した方はスポーツが好きな方で、私もスポーツが好きだったのでとても話が盛り上がり、その方の人生でのスポーツ体験談を聞く中で真似してみたいことも多々出てきて、この交流会は、私の人生のプランニングという観点においても有意義な時間となった。

2月22日

この日はまず藤里町社会福祉協議会会長菊池まゆみさんの書籍にもなっている「藤里方式」についてのお話を聞いた。今回のお話のテーマは「引きこもりを地域の力に、我が事丸ごと藤里の町づくり」で、藤里の事例をベースに「地域づくりにおいて大切なもの」というのをお話の中で漠然とではあるが理解できた。菊池さんは今全国で「地域づくり」等々の講演会等で全国を飛び回っているとのことで、そんな中で貴重な時間を私たちごまちゃんに割いて頂けて本当に貴重な経験、時間となった。

その後、午後からは地域の方とスポーツで交流ということでユニカールを地域の方と合同チームを作り、行った。藤里の方はみんな本当に元気で80代でも元気にユニカールをやっている姿は、藤里では結構普通の事なのかもしれないが、都会から来た私たちからしてみれば想像だにつかない光景であり、こういったところにも「地方のならではの、地方だからこそなりえる強さ、すごさ」のようなものを目の当たりにした。都会部では、80代などの高齢者と私たちのような学生と一緒にユニカールをするなどと言った光景は見受けられないだろうし、そういった面でも「藤里」ってすごいところなんだなと思った。

2月23日

この日はまず前日同様スポーツを通じて地域の方と交流を図るということで私たちごまち

ゃんが毎年対戦している藤里の熟年バレーの方々とバレーボール対決を行った。このバレーボール対決においても、年齢でいえば圧倒的に私たちごまちゃんの方が若いにも関わらず、藤里の方は毎日のようにみんなで練習しているとのことだけあってとてもコンビ技がうまく、何回か負けてしまった。しかし、私たちごまちゃんが強烈なアタックなどをしたときは、普段そのような若いうちしかできないようなプレーを見ないだけあって体育館中が「すごい！！」と盛り上がり、ここでも私たちごまちゃんは「地域に笑顔を運べた」と実感できた。また、熟年バレーのあるメンバーに私は顔を覚えてもらっていたらしく、「あんた去年より上手くなったな！」と声をかけてもらえ、そのとき、私は「ごまちゃんって刹那的ものじゃないんだ」と実感した。なんだかとても心が温かくなったのが思い出深い。

その後、午後からは大野岱牧場いき、めん羊をみた。藤里のめん羊は品質が良く、出荷先は東京の棒一流ホテルとのことで、そんなめん羊がどのようにして飼育されているのかということ詳しく学べた。その後は、先日雪中キャベツ掘体験で掘りだしたキャベツなどを使い、地域の方々と鍋を囲いながら、一緒に夕飯をとにした。地域の方もみんな楽しんだらしく、本当にたくさんの差し入れもあった。みんな熟年バレーでの出来事や人生の悩み等々、様々なお話を地域の方々と食事をしながら語りあった。

2月24日

午前中はぶなっちというグループホームを訪問し、傾聴を行った。

ぶなちは去年も伺い、グループホームの利用者の一人が去年のことをしっかりと覚えていた方がいて、そのときは本当に驚いたとともに、ごまちゃんというサークルはただの「訪問者」以上の意義を持ったサークルになっているのだと思った。

今回の秋田合宿では、本当に様々なことを経験、学習することができた。また、その中で、私たちごまちゃんを毎年心から楽しみにしている藤里の方々がいるということを通して感じ、また、私たちごまちゃんはただのサークルではなく、藤里に大きな存在意義を持った重要な役割を担っているサークルになっているのだということも活動を通じて感じた。だからこそ、このごまちゃんの秋田での活動は今後とも永遠に続いてほしいと切に思った。